

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	建学の精神「堅実真摯」 生徒一人ひとりの知・徳・体の調和のとれた人格形成を目指し、豊かな人間性と健全な心身を育み、自らの可能性を追求し地域社会に貢献できる生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全員が進学を希望しており、価値観は一元化している。 ・生徒は素直で真面目で、落ち着いた雰囲気の中で学習をしており、学校の取り組みに対して好意的である。 ・主体的に考えたり、積極的に行動したりすることを苦手とする生徒が多い。 ・家庭学習時間を確保できない生徒が少なからずいる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会状況の変化や生徒の実態の変化に対応した授業方法（ICTを活用した授業、習熟度別授業）の在り方について研究を深め、生徒が主体的に考えたり積極的に行動したりする場面を取り入れた授業を全職員が意識して展開できるようにする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務学習係・教科主任を核とし、年間を通じて公開授業・研究授業を計画実施していく。 ・ICT活用推進リーダー、校内研修推進リーダーを中心にICT活用の有効性を伝える組織を編成する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業改善の必要性を全職員に浸透 (2) ICT環境の充実とICTの有効活用の全職員への浸透	(1) 生徒の主体性の向上 (2) 授業に対する満足度および学力の向上	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の研究授業・研究会と年2回の公開授業週間の実施 ・推進リーダーによるICT活用研修会の実施 ・オンライン学習支援、全校集会、学年集会、ふるさと探究学習、高校見学会でのWeb会議システムの活用 ・授業での一人一台タブレットの活用推進 	① 職員の取組状況 ② 生徒の主体性の向上 ③ 学力の向上および授業に対する満足度	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○職員間に「基礎学力の定着を図る授業」「ICT（一人一台タブレット）を有効活用した授業」の意識が醸成し、生徒が主体的に取り組む授業を実践できるようになってきた。 ▲授業改善、一人一台タブレットを活用など、生徒の主体性を向上させるための土台は構築されつつあるが、まだ生徒は受動的である。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、公開授業週間における授業参観はもとより、普段から授業を参観できる雰囲気を職員全体に広め、参観を通して生徒が主体的・積極的に活動する場面を認識し授業改善に生かすようにする。 ・一人一台タブレットを活用した授業をさらに推進していくために、推進リーダーを中心に、学習活動の中でデジタル教材やアプリケーションが手軽に多くの先生に使用してもらえるように、研修会を実施していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見1：生徒の発表から、生徒自身が主体的に取り組んでいるとわかる。指導がよく行き届いていると感じられる。この雰囲気がさらに広がっていくことを期待する。 ・意見2：公開授業や研究授業は生徒にとって良い機会であるので積極的に実施してほしい。 ・意見3：家庭学習に積極的でない生徒の指導が大切だと考える。 ・意見4：これからの社会が必要とする「自ら主体的に考え、積極的に行動する」生徒を育成しようと職員が知恵を絞って取り組んでいることを高く評価する。 ・意見5：今後も、高い志を持ち、自ら学ぶ生徒の育成を図り、どの生徒も「自立」させてほしい。 ・意見6：ICTを活用すれば、生徒が主体的、積極的になるのか、学習時間の確保につながるのかなど、検証する必要がある。アンケートの結果だけで全体の傾向を断定するのはやや短絡的ではないか。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣南高等学校 学校番号 22

I 自己評価

1 学校教育目標	建学の精神「堅実真摯」 生徒一人ひとりの知・徳・体の調和のとれた人格形成を目指し、豊かな人間性と健全な心身を育み、自らの可能性を追求し地域社会に貢献できる生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としてのマナーや社会規範を身に着けさせる。89.7%→90.3% ・学校は個々の相談に丁寧に応じている。85.4%→85.4% ・いじめや差別に対する厳しい対応。84.8%→85.0% 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自転車・歩行者の交通安全や危機管理意識の向上。 ◇社会の一員としてのマナー遵守への意識向上。 ◇教育相談を中心とした、個々の生徒に応じた適切な支援への連携。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が一致協力して取り組める体制を確立していく。 ・教育相談と関係外部機関、生徒指導の連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 様々な交通安全啓発活動を通して生徒自身の交通マナーに対する意識の向上。 (2) 身なり・マナー指導の継続実施。 (3) 放送等によるタイムリーな指導の実施。 (4) 十分な生徒理解による適切な支援の実施。	(1) 交通安全啓発活動が計画どおり実施できた。 (2) 身なり、マナー指導を計画どおり推進できた。 (3) 迅速な対応による、早期対応ができた。 (4) アンケート調査の結果より細かな指導ができた	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導（月2回の交差点指導、校門指導）（適宜行う交通案指導） ・身なり・マナー指導（薬物乱用防止講話）（定期的に身なり指導を行った） ・生徒理解・人権教育（全校一斉SNSに関する教育） 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故を減らすことができたか。 ・身だしなみやマナーが向上したか。 ・生徒理解を深め、人権意識を高めることができたか。 	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果	○交通事故の発生件数は、減少したが、交通事故発生件数が0ゼロにならなかった。全体的に交通安全に関する意識が高まり、交通ルール違反者は減少したように思う。来年度も交通安全防止を呼び掛けていきたい。 ・遅刻する者が減少した。 ○うっかり校内でスマホを使用し、指導される生徒が減少した。 ○教員間の生徒情報の共有ができ、素早い適切な対応ができた。 ○全体的に落ち着いて学校生活を送ることができた。 ▲身だしなみは落ち着いてきたが、コロナ禍で体調等を崩す生徒が増加した。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの依存使用や登下校中のながらスマホをなくす。 ・引き続き来年度も校則の見直しを検討していきたい。 ・教育相談に関わる研修会を継続して実施していきたい。 ・身なり指導の実施回数を減らす。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

<ul style="list-style-type: none"> ・意見1：制服や、ジェンダーの問題等生徒と向き合い、考えなければならないことはたくさんある。問題から解決に至る過程で生徒の自発的な行動が出てくるとよい。 ・意見2：生徒が困っていることをため込まず相談できる体制づくりが生徒・教職員双方にとって非常に大切である。 ・意見3：コロナ禍による家庭環境の変化が生じている生徒への支援をお願いしたい。 ・意見4：生徒の交通安全や身だしなみ、人権意識の涵養などを職員の中で情報共有できている。 ・意見5：生徒自らが主体的に考え、積極的に行動するように指導ができていればさらに良くなる。 ・意見6：来年度から高等学校で精神疾患等についても指導事項になり、生徒が今まで以上に自分や周りの人々の心の不調について理解し、他者を思いやることにつながることを期待する。 ・意見7：マナーを身につけた品格のある生徒が増えており、さらに仲間とともにお互いに高めあうことの喜びを味合わせる教育をお願いしたい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	建学の精神「堅実真摯」 生徒一人ひとりの知・徳・体の調和のとれた人格形成を目指し、豊かな人間性と健全な心身を育み、自らの可能性を追求し地域社会に貢献できる生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われているかどうかの生徒からの評価が前年よりも下がった。旧来の方法の見直しが必要。 ・進路情報の提供に関する項目では、ここ3年間でプラスの評価が微増した。今後も保護者への情報発信を工夫していくべき。 ・各学年とも7割近い生徒が国公立大学への進学を希望している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇3年間を見通した進路指導計画に基づき、各学年の到達目標達成のために、各学年会との連携を強め組織的な進路指導体制を確立する。また、大学入試改革等への対応を意識した計画、体制を研究する。 ◇受験指導体制をより充実させるために、職員の進路指導研修や大学研究、入試問題研究等の自己啓発活動の充実を図る。 ◇生徒が、自己の生き方を長期的な視野で主体的に考えることができるよう、総合的な学習（探究）の時間等を通してキャリア教育を推進し、望ましい道徳観・勤労観を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向けて、進路意識の段階を踏まえて指導する。 ・外部講師の活用による進路意識の喚起、高揚につながる企画を計画運営する。 ・時機にあった進路情報の提供と教員向けの研修の呼びかけを行う。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路指導計画に沿った進路講話や保護者進路研修会等を充実させる (2) 各学年と協力し、学力分析や学力伸長に向けた企画を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路講話後の生徒の様子や保護者進路研修会後のアンケート結果 (2) 外部模試の結果分析と情報共有、各学年、各教科の取組状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者進路研修会を3年は5月に、2年は6月と11月、1年は9月に実施。 ・3年生に向けて、河合塾講師による学習についての講座や小論文特別講座を実施。 ・外部模試実施後に毎回結果分析をし、職員会議で情報を共有し、各教科で学力伸長に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者に対して時機にあった進路情報の提供ができた（アンケート結果） ②講座受講後の生徒の反応 ③外部模試結果による学力伸長の度合い 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果課題	<p>○保護者進路研修会では、親子で同じ講演を聞くことで、各家庭で進路についての話合いの契機となった。また、各学年に合った進路情報を提供することができた。</p> <p>○外部講師の特別講座は、生徒のやる気を引き起こし、その後の学習に反映することができた。</p> <p>▲コロナ禍で、例年行っている進路指導ができず、総合型選抜や学校推薦型選抜において後手に回ることがあり、十分な準備ができなかった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者進路研修会の内容と発信の仕方をさらに工夫する。 ・総合型・学校推薦型選抜に対して職員研修を実施したり、情報共有したりして、進路指導体制の強化を図る。 ・外部講師の特別講座は、生徒のやる気を大いに喚起するので、指定は外れるが、財源を確保して継続して実施していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見1：大学に合格するという目標だけでなく、さらに社会で活躍するために社会人外部講師の特別講座はとても効果的だと考える。 ・意見2：将来の希望が具体的な生徒、将来の展望がまだ描けない生徒などさまざまであるが、大学進学だけが目標とならないようにしてほしい。 ・意見3：保護者、学校、生徒が密に連絡を取って、生徒のよりよい進路選択をバックアップしてい

ることがよくわかる。

- ・意見4：同じ内容でも外部人材から聞く話は説得力がある。生徒の意識を変化させるためにも必要である。
- ・意見5：生徒が社会の変化を読み解きながら、自らの関心や適性を知り、社会貢献への志を持ち、自ら考えて決断するプロセスを大切にしてほしい。
- ・意見6：国公立大学に限らず、特色のある教育をする様々な学校が存在していることも目を向けてほしい。
- ・意見7：生徒と共に保護者の理解を促し、自己実現、志望校への進学に向けた一層の指導・助言・励ましをお願いしたい。